

徳とく泉くゐん寺じ報ほう

No.0030

発行

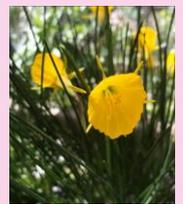
令和2年4月

発行元 徳 泉 寺

仙台市宮城野区

榴岡 3-10-3

(022)297-4248



明日ありと思う心の仇桜

夜半に嵐の吹かぬものかは

親鸞



春が来て、花が咲いて、いつもと同じように朝が来て。それがいかにもありがたいことであるのかを九歳の親鸞聖人は知っていたのでしょうか。世の中が混乱と困窮に喘いだ鎌倉時代、苦しむ民衆に寄り添い続けた親鸞聖人の教えが今、私たちに響いてきます。

これだけ長い時間、外出をためらい、人と会うのを避け、自分と対話する時間をたっぷり与えられると、むきだしの自分の内面がみえる、ということがあるかも知れません。家において片づけをしたり、家族との会話に行き違いを感じたりしたとき、今まで自分が目を背けて向き合おうのを避けていたことがはつきり見えたりすることがあるかも知れません。

世の中が閉塞感に満ちるなか、いつもと同じように咲く花を見てなんとも不思議な気持ちがあります。ああ、命はどんな時も精いっぱい輝いて生きているのだと、花に教えられる気がします。